

経済情報

米銀貸出態度調査（2009 年 7 月）の結果について

連邦準備制度理事会（FRB）の融資担当者調査（3 ヶ月ごとに年 4 回実施、今回は 7 月調査）の結果が発表された。貸出基準を厳しくした銀行のネットの割合が 3 回連続低下するなど、金融市場の改善をうけて米銀の貸出態度は限界的に緩和の動きが見られるが、ほとんどの銀行が、少なくとも 2010 年後半までは貸出基準は過去の平均レベルまで戻らないと回答するなど、金融正常化にはまだ時間がかかる見通しである。以下、調査結果の概要についてまとめた。

1. 企業向け貸出：金融市場の改善で貸出厳格化の動きは限界的に緩和

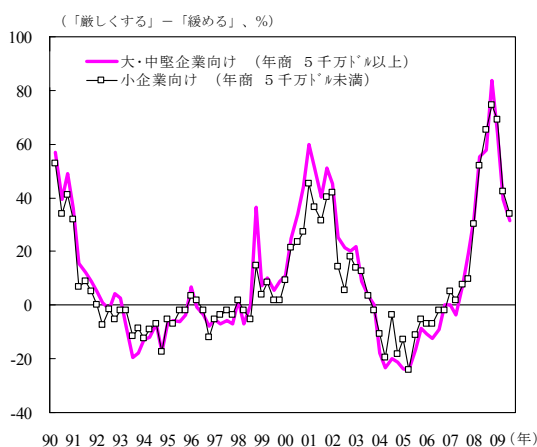
① 商工業貸出

商工業貸出では、3 ヶ月前と比べて貸出態度を「厳しくした」銀行の割合から「緩和した」銀行の割合を引いたネットの比率が、大・中堅企業向けで前回の 39.6%から 31.5%に、小企業向けも 42.3%から 34.0%へ低下した（第 1 図）。ピークをつけた昨年 10 月調査から 3 回連続で比率が低下しており、金融市場の状況改善をうけ、貸出態度には限界的に改善の動きが見られる。貸出スプレッドを拡大した銀行の比率も低下したが、大・中堅企業向け（79.2%→59.3%）、小企業向け（75.0%→64.2%）ともに、水準は過去のピークを上回ったままで、企業の資金調達環境が依然厳しいことを示している（第 2 図）。貸出基準を厳しくした銀行では、その理由として、ほぼすべての銀行が前回に続いて「経済見通しの悪化、不透明感の高まり」をあげている。景気は底入れしつつあるが、引続き実体経済の弱さが米銀の貸出姿勢を慎重にさせている。

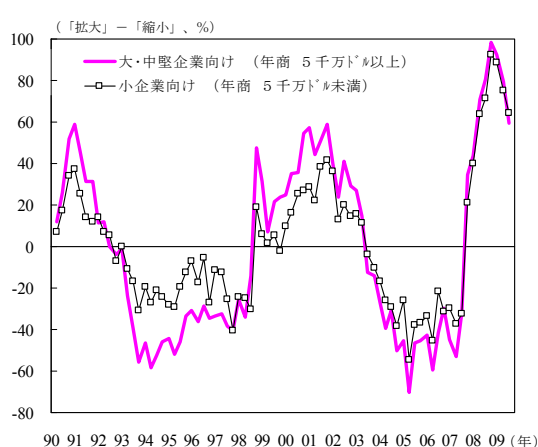
一方、資金需要については、大幅な落ち込みが続いている。「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率は、大・中堅企業向けで前回調査の▲60.4%から▲44.4%、小企業向けでは▲63.5%から▲

54.7%へと小幅持ち直したが、引続き過去最低水準の近くにある（第3図）。今回、特別調査として商工業貸出減少の原因調査が実施された。米銀が重要と考える要因から並べると、①信用力のある借手の需要減少、②借手の信用状況悪化、③貸出基準の厳格化、④貸出スプレッドや手数料引き上げによる借手の借入意欲低下、⑤社債など他の調達手段へのシフト、の順番となっており、景気の落ち込みによる借手の資金調達ニーズ低下や信用状況の悪化が貸出の低迷につながっているとの結果となっている。

第1図：米銀商工業貸出の貸出基準

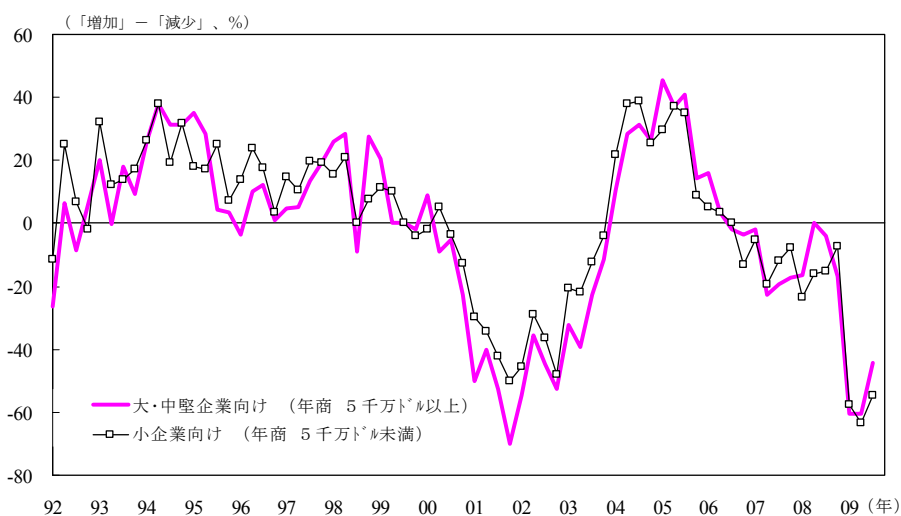


第2図：米銀商工業貸出のスプレッド



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第3図：米銀商工業貸出の資金需要

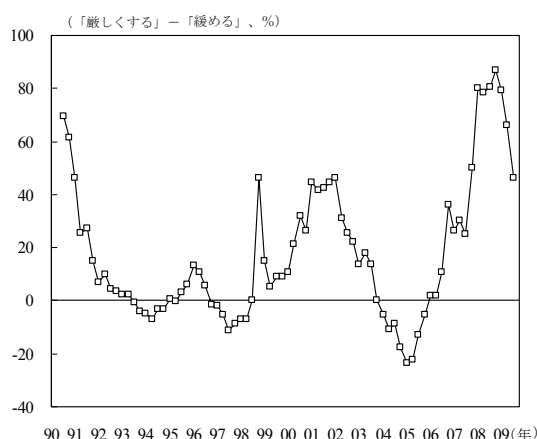


(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

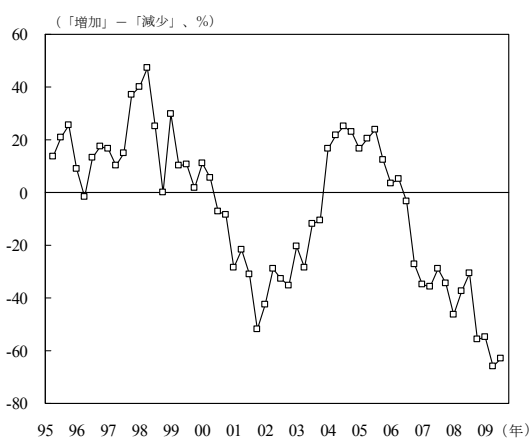
② 商業用不動産貸出

商業用不動産貸出でも、貸出態度を厳しくした銀行のネットの比率は前回調査に続いて低下したが（66.0%→46.3%）、商工業貸出や消費者向け貸出と比べると水準は高い（第4図）。一方、資金需要は底這い状態で、「増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率は、前回の▲66.0%から▲63.0%へと小幅低下に止まった（第5図）。オフィスの空室率が上昇、ショッピングセンターの空き店舗が増えるなど、商業用不動産市場の冷え込みや、CMBS（商業用不動産ローン担保証券）市場の機能低下が商業用不動産貸出に対する需要減少につながっているとみられる。こうした状況を改善するために、FRBは8月17日にターム物資産担保証券貸出制度（TALF）の期限を現行の今年末から2010年3月末へ延長した。

第4図：商業用不動産貸出の貸出基準



第5図：商業用不動産貸出の資金需要



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

2. 個人向け貸出：プライムを中心に貸出基準厳格化の動きが緩和

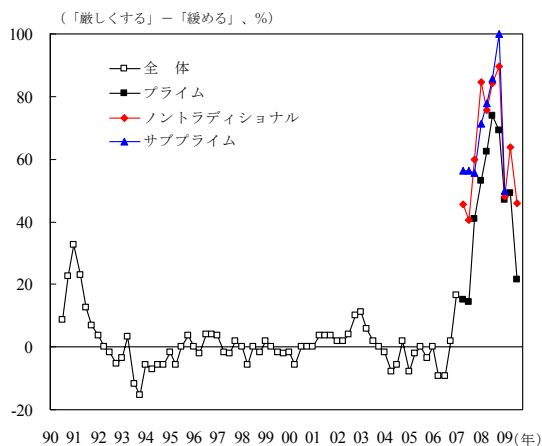
① 住宅ローン

住宅ローンの貸出基準は、プライムを中心に大きく改善した。住宅市場の底入れを背景に、信用力の高い借手に対する貸出態度が緩和しつつあることが窺われる。3ヶ月前に比べて貸出態度を「厳しくした」銀行のネットの比率は、信用力の高いプライム向けで顕著に低下（49.0%→21.6%）、非伝統的な住宅ローン向け^(注)でも下がった（64.0%→45.8%）。なお、サブプライム向けでは、前回に続き報告銀行が少なく、集計の対象外となった（第6図）。ホームエクイティ・ローンでも貸出基準厳格化の動きは緩和した（50.0%→32.1%）。

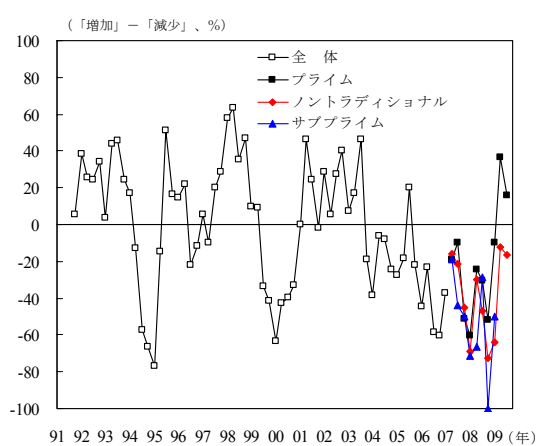
(注) 数年間、元本返済を先送りする「インタレスト・オンリー・ローン」など

一方、資金需要は、住宅販売の底入れにより回復方向にある。プライム向けでは、「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が前回の 36.7%から 15.7%へと低下したものの、2 回調査連続でプラス（増加超）となった（第 7 図）。

第 6 図：住宅ローンの貸出基準



第 7 図：住宅ローンの資金需要

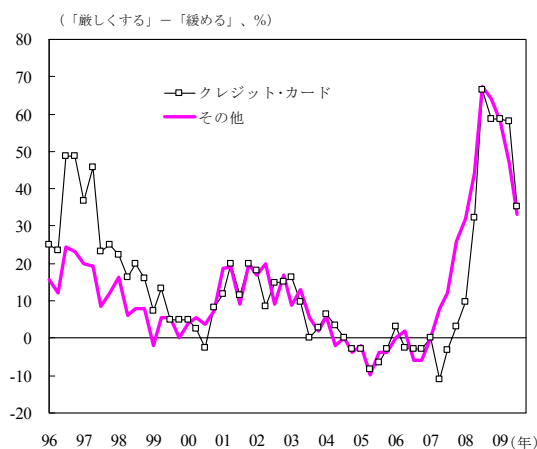


(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

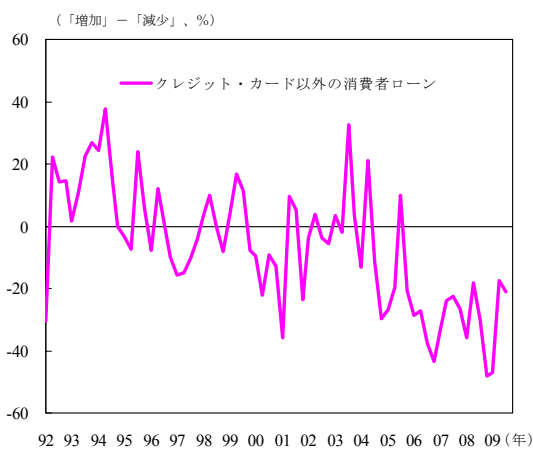
② 消費者ローン

消費者ローンでも、貸出基準を厳しくした銀行のネットの比率は低下方向にある（第 8 図）。改善が遅れていたクレジット・カードでも 58.1%→35.3%と前回から 20 ポイント以上の低下となった。一方、資金需要は、前回調査の▲17.6%から▲21.2%へと小幅ながら再びマイナス幅が拡大した（第 9 図）。個人消費の基調の弱さを反映して、低迷が続いている。

第 8 図：消費者向けローンの貸出基準



第 9 図：消費者向けローンの資金需要



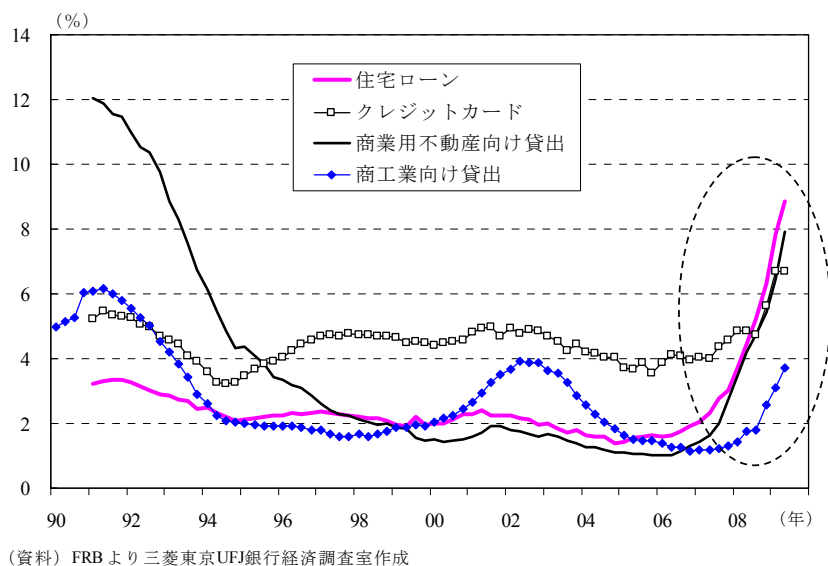
(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

3. 金融正常化にはまだ時間

今回の調査では、景気の持ち直しや金融市場の状況改善をうけ、米銀の貸出基準厳格化の動きが限界的には緩和の方向にあることが確認された。しかし、貸出基準は平時と比べれば、依然、厳しい状況にある。今回、実施された特別調査では、米銀の多くが少なくとも2010年後半まで貸出基準は過去の平均水準に戻らないと回答、予見しうる将来、貸出基準は過去の平均より厳しい状態が続くとの回答も少なくなく、金融正常化にはまだ時間がかかる見通しである。

全米平均では景気が底を打っても、カリフォルニアなど住宅バブル崩壊の影響が大きく財政事情が悪い州では状況は依然厳しい。米銀の不良債権比率は商業用不動産向け貸出中心に上昇が続いており、今後は地銀の破綻増加も予想される(第10図)。その結果、こうした州を中心に、信用不安が高まり、銀行の貸出態度が厳しくなることで、景気悪化と信用逼迫の負の連鎖が再び強まるリスクがあることには注意を要しよう。

第10図：米銀の貸出延滞率



(H21.8.18 山中 崇 takashi_2_yamanaka@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様自身でご判断下さいますよう、宜しく申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

発行：株式会社 三菱東京UFJ銀行 経済調査室

〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1